



官民連携の都心をめざして

～姫路駅北駅前広場整備のあゆみ～

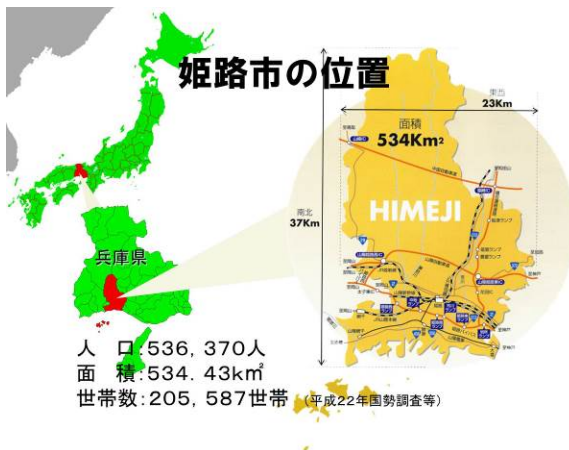
姫路市姫路駅周辺整備本部

副本部長 兵頭 康

1 はじめに

兵庫県の南西部に広がる播磨平野のほぼ中央部に位置する姫路市は、瀬戸内海に面し、四季を通じて温暖な気候やなだらかな地勢に加え、豊かな自然や利便性の高い都市機能などの住環境に恵まれた播磨の中核都市です。

古くから山陽道と出雲・因幡、但馬の各街道を結ぶ交通の要衝として栄え、世界文化遺産姫路城に象徴される風格ある歴史文化都市として、また、近代から現代にかけては、播磨臨海工業地帯の中心部に位置する活力ある商工業都市として発展を遂げてきました。さらに、姫路城はもちろん西の比叡と称される書写山圓教寺などの多彩な観光資源を擁しており、近年は観光都市としての戦略も持っています。平成16年度を「国際観光都市・元年」と位置付け、「1000万人集客都市・姫路」「もてなしの都市・姫路」の実現に向け取り組んでいます。



姫路市の位置



多彩な観光資産

現在、本市では、目指すべき都市像「生きがいと魅力ある住みよい都市 姫路」実現のための基本目標の一つに「自然豊かで快適な環境・利便都市」を掲げています。そのための基本的政策の一つが「都心部まちづくりの推進」で、この計画の歩みは約40年前に遡り、昭和48年の「国鉄高架化基本構想」の発表に始まります。昭和62年に都市高速鉄道と土地区画整理事業、関連道路がセットで都市計画決定され、平成元年には、相次いで事業着手しました。そして平成18年3月にはJR山陽本線の高架切替えと、これに交差する私鉄の山陽電鉄本線の逆転切替えが同時に行われ、平成20年12月には、残っ

たローカル線の姫新線・播但線の高架切替えが行われ、既存の鉄道施設撤去後の姫路駅周辺整備が本番を迎えました。本稿では、姫路駅北駅前広場整備を中心に市民や事業者、関係機関と連携協力して取り組んでいる都心部のまちづくりについて紹介致します。

2 都心部の問題

姫路城や姫路駅を核とする本市の都心部は、前述のように播磨地域の政治・経済・文化の中心地としての役割を担ってきました。明治22年に旧城下町を中心に市制が施行され、その後、鉄道等の整備により駅周辺にかけて商業・業務施設が展開し市街地が形成されました。昭和20年に二度の空襲により被災しましたが、幅員50mの大手前通り（延長約800m）によって姫路城と姫路駅が一直線に結ばれるなど、戦災復興土地地区画整理事業により、都心部は更新され、各種交通機関や商業・業務機能が集積する交流・流通の拠点に発展してきました。昭和47年の山陽新幹線開通や昭和50年の姫路バイパス開通を契機に駅南側でも基盤整備が進捗し、市勢が発展する中、南北問題が顕在化してくるようになります。都心部に横たわる鉄道施設により一体的な市街地の発展が妨げられ、また駅周辺の道路は、長時間遮断された開かずの踏切を生じ、都心部の東西2箇所の跨線橋は、慢性渋滞を引き起こして円滑な南北交通を阻害していました。これを解消すべく昭和48年に「国鉄高架化基本構想」が発表されました。

ところで昭和62年の都市計画では、JR姫路駅の中央コンコースから直接姫路城を望むことができず、また、駅前広場へ出るには駅ビルの移転先用地（JR所有の仮換地）を通る必要がありました。そこで平成19年頃からの都市計画決定の変更作業に取りかかりましたが、この過程で参考図として作成した広場のレイアウト図に対して、「交通機能偏重だ」とか「環境空間が少なすぎる」など多くの批判が寄せられました。また、商工会議所や市議会の一部会派、商店街連合会（以下「市商連」という。）などがそれぞれ独自に広場の計画案を検討し、完成パースを発表するなど色々な動きや様々な意見が出て混乱した状況となりました。



62年都市計画の駅前広場



都市計画変更時の参考図

3 計画段階の市民参画

そこで、これらの各種団体に加え、広場周辺の権利者、交通事業者、関係行政機関の代表者などで構成する『姫路駅北駅前広場整備推進会議』（以下「推進会議」という。）を平成20年11月に立上げ、

まず広場の基本コンセプトを作り、これを市民全体で共有しようということから始めました。そして『城を望み、時を感じ人が交流するおもてなし広場』という基本コンセプトを平成21年4月の推進会議で確認し市議会にも報告して、レイアウトの検討に着手しました。

一方で、市商連やNPOなども積極的に勉強会やワークショップなどの活動を行っていました。関係機関から直接意見を聴取したり、自分たちだけではなく一般市民にも参加を呼びかけ、また、そこへは市役所など関係機関の職員や専門家などを講師として招いたり、市主催の推進会議や説明会と並行して行う中で広場への考え方が成熟していきました。そして平成21年4月には、市商連とNPOが市民フォーラムを開催し、400人の市民が集まった中で、大手前通りへの一般車の進入を制限し公共交通を優先するという画期的な新たなレイアウトの提案がありました。実は、昭和62年の都市計画による道路網計画では、姫路駅を中心にして、内々、内、中などの環状道路を整備し、内々環状道路に囲まれた約500m四方の内側は、通過交通を抑制して歩行者、公共交通優先の人にやさしい交通環境をつくるという構想があり、まさにこれに合致した提案でありました。

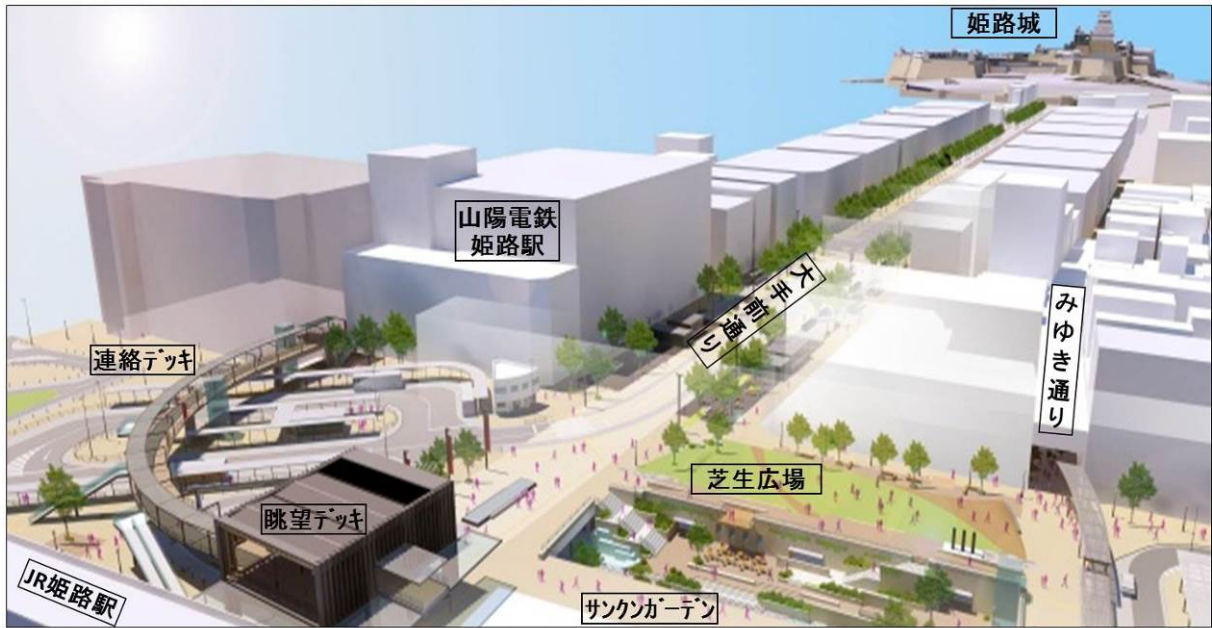


内々環状道路網



北駅前広場の基本レイアウト

市も推進会議や市民ワークショップなどを重ねてできるだけ多くの市民の意見を聴き、可能なものは取り入れながら、平成21年8月には基本レイアウトを固め、21年度末に基本設計をとりまとめました。もちろんその中には、多数の市民からの提案であった《一般車の通行制限》として大手前通りの十二所前線（内々環状道路の一路線）以南への一般車の進入を制限する計画にしたほか、盛り込むことができた主な基本的事項は、《城への眺望を確保》や《広場西側の一般街区の活用》などです。大手前通りは当初整備された昭和30年当時からすでに無電柱化されていましたが、駅前から世界遺産を望むことができる貴重な景観は、訪れる人々に感動をもたらしています。この眺望はいつまでも大切にすべきものと考えています。また、姫路駅への送迎用の一般車のために駅前広場の西側に隣接する一般街区も活用することとしました。これを12街区と呼んでいます。具体的には、立体都市計画制度により地表一階部分を交通広場とし、2階以上に建物を建築して立体利用を図る事業者を募集したところ、バス事業者から応募があり、昨年の11月から着工しました。これにより姫路駅の東西両側に一般車乗降場を確保することができることとなりました。その後も同様に推進会議等を開催して意見交換をしながら実施設計を進める一方、NPOは広場をどのように活用していくかという方向での議論に移行していきました。



姫路駅北駅前広場完成イメージ

4 整備から利用活用へ

平成23年2月には、かねてより交渉を行っていた旧駅ビルや地下街のテナント全員の理解と協力が得られ、退去が完了したので、地下街改修と旧駅ビルの解体撤去がそれぞれの所有者により開始されました。そして12月には新駅ビル建設が着工され、平成24年2月に旧駅ビルの解体が完了すると直ちにサンクンガーデン等の駅前広場整備を開始しました。

サンクンガーデンは、(株)フェスタにより改修された地下街グランフェスタ（昨年3月にオープン）とピオレ姫路（JR西日本による新駅ビル）の間の地下レベルに整備した吹き抜けの庭園で、かつて姫路城の外堀がこの付近にあったことから壁面は石垣をイメージし、また中央部にはせせらぎを設け、緑も多く配置しています。昨年4月に新駅ビル「ピオレ姫路」と同時にオープンしましたが、当初から買い物途中で小休止されている姿や家族連れ、学生などが多く見受けられ、地上の喧騒から一段下がった水と緑の癒しの空間として定着しています。



サンクンガーデン

さらに6月には、中央コンコースの北側で整備を進めてきた眺望デッキと連絡デッキが完成しました。眺望デッキは、姫路城を正面に望み、また城へ向かう門をイメージして、材質も鉄と木を組み合わせ、

城下町姫路の玄関口を演出しています。また、連絡デッキは、JR 姫路駅と山陽電鉄姫路駅を2階レベルで結ぶ通路で、道路を横断せずに行き来することができ、またバス乗り場にも直接行くことができることから、公共交通機関の乗り継ぎが安全で便利になります。



眺望デッキ



連絡デッキ

現在大手前通りは工事中ですが、完成後は、グランフェスタを中心とした耐候性抜群の地下レベル、人にやさしい交通環境の地上レベル、前述の公共交通利便性の高いデッキレベルの三層の歩行空間となり都心の回遊性が格段に向上します。特に、大手前通りは、一般車の通行を制限して、バス・タクシー等の公共交通優先とする方針で関係機関とも協議を行ってきています。車道は停車帯を除けば6車線から2車線に縮小して歩道を拡幅するのに加え、例えば中央コンコースを出てお城へ向かう場合、十二所前線との交差点までの250m間は車道を横断する必要がなくなり、歩行者移動の安全快適性は飛躍的に向上します。さらに将来的にはオープンカフェなどを開設し、姫路駅から楽しみながらお城を目指して歩いていける空間にしたいと考えています。

この歩行者優先の大手前通りや先ほどの12街区などを加えると、駅前空間は従前の5倍の約3万㎡になります。このくつろぎと賑わいの空間の様々な活用を通じて、都心部全体の活性化を図ることを目指しており、官民連携した管理活用のしくみづくりを模索しています。平成23年8月には、市商連やNPOなどを中心として姫路駅前広場活用連絡会の第1回の準備会が開かれ、平成24年5月には姫路駅前広場活用協議会へと発展してさらなる活動を継続しています。現在北駅前広場が完成するまでの工事期間中、サンクンガーデンなど供用開始されている公共空間の一部を使用して、まちの活性化につながる駅前広場の活用方法を試行・検証するため、昨年9月から「チャレンジ駅前おもてなし」と名づけて利用者を募集しながら社会実験を実施しています。これまで、「The 獅子舞 in ひょうご」や「夢を叶える結婚式」「姫路大道芸フェスティバル」などが行われており、新たな交流拠点としての整備・活用を進めています。また、来春には、サンクンガーデン北側の芝生広場が完成します。芝生広場には、ウッドデッキを備えており、小規模なライブやイベントを実施することができます。周辺では、オープンカフェの設置が予定されており、市民や観光客の皆さんには、買物途中の休憩や、イベントへの参加・見学など思い思いの時間を過ごし、くつろいでいただきたいと思っています。



サンクンガーデンで行われた公開結婚式



The 獅子舞 in ひょうご



姫路大道芸フェスティバル

5 おわりに

本年1月から、姫路ゆかりの天才軍師・黒田官兵衛を主人公にしたNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送が始まりました。それに併せて姫路城南側の家老屋敷公園内に「ひめじの黒田官兵衛大河ドラマ館」が1月12日（日）からオープンしています。

ぜひこの機会に新しく生まれかわりつつある姫路城周辺の整備状況をご覧いただき、大河ドラマ館にも足をお運びいただければ幸いです。

■筆者略歴

昭和31年生まれ、兵庫県姫路市出身。神戸大学工学部土木工学科卒業後、姫路市職員に採用され、平成23年から現職。

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所
〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号
グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F
TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329